

借入金は利益の前倒し。本当の利益とは

2月分

2月4日

利益には、いろいろの利益があります。経営計画で言う利益は、
経常利益です。経常利益までが全社員で協力してあげられる利益だから
です。今回は、未来の利益ではなく、現在及び過去の利益について
書かせていただきます。

利益には、売上総利益、営業利益、経常利益、税引前利益、
税引後利益、配当役員賞与支払後利益といろいろの利益がありますが、
私は、会社の本当の利益とは、配当役員賞与支払後利益 - 長期借入金
返済額だと思っています。この計算式に減価償却費を入れたりののは
減価償却費相当額を定期積金等にすれば次に買うときは、無借金で
購入できるからです。私の考えでは、税金もコストであり、配当もコスト
です。利益とは、社員を守るためのコストであり、事業存続のためのコスト
ですが、1円でも多くの利益を蓄積して会社をつぶれにくい体質に
するのが経営者の役割です。ですが、会社の体質が強くなるまで
は、節税をして、納税額を減らす、配当も少なめにするのがよいと思っ
ています。

資金という切り口で経営を見ると、赤字でも経営上黒字のケースがあり
黒字でも経営上実質的に赤字のケースがあります。例えば、決算上1,000
万円の赤字でも、減価償却費が3,000万円あって、無借金の会社は、他の
科目に変化がなると仮定すると、資金が2,000万円増えます。会計上赤字
でも心配いりません。反対に会計上1,000万円の利益が出ていても減
価償却費が同じく3,000万円、しかし借入金の返済額が6,000万円あれば
資金は2,000万円減ります。さらに1,000万円の利益に税金、配当が重なる
と資金はさらに減ります。本利の利益とは、手許にいくばく資金
が残るかということではないでしょうか。借入金の多い会社は無借
金に変わったときが、本当の利益が出ると思っただけよいのではないで
しょうか。

土地、建物を買ると、会社は利益が出ます。今迄家賃、地代を払って
いて、経費にのっていたものが、購入後借入金の返済になり、会社の経費
にならなくなるになります。会社は儲かっているように見えます。そして、同じ条件なら
税金が増え、配当が増え、地代家賃より借入金の返済額のほうが多いで
しょうから、資金不足になります。

借入金の本質は、利益の前倒しです。何故借金をするのか、利益を出すた
めです。設備投資、人材投資、在庫投資、全て利益を出すためです。借入金は毎
月の返済額が大切です。金利よりも大事な会社があります。利益を出すために
借金をするので、借入金の返済は、利益の範囲内でなければなりません
というのが原則です。ですが、不良資産等の売却により、売却損を出し、節税をし、
売却額の入金を借入金の返済に回せば、月々の返済額が少なくなり、会社
が稼得しなればならない利益は少なくなり、反対に借入金返済の多い
会社は稼得しなればならない利益は多くなります。（したがって、会計上の利益は
借入金返済額の多少により評価されるべきです。

古田土 満